

第2次 静岡市茶どころ
日本一計画

令和2年3月
静岡市



「世界中の誰もがあこがれるお茶のまち」とは……

山々に美しい茶畑風景が広がり、畑を手伝う

人々が茶農家と共に笑顔で汗をぬぐっている

お茶が育む幸せ感を求め、山間地に二世代、三世代の

暮らしをはじめ家族が新たに生まれている

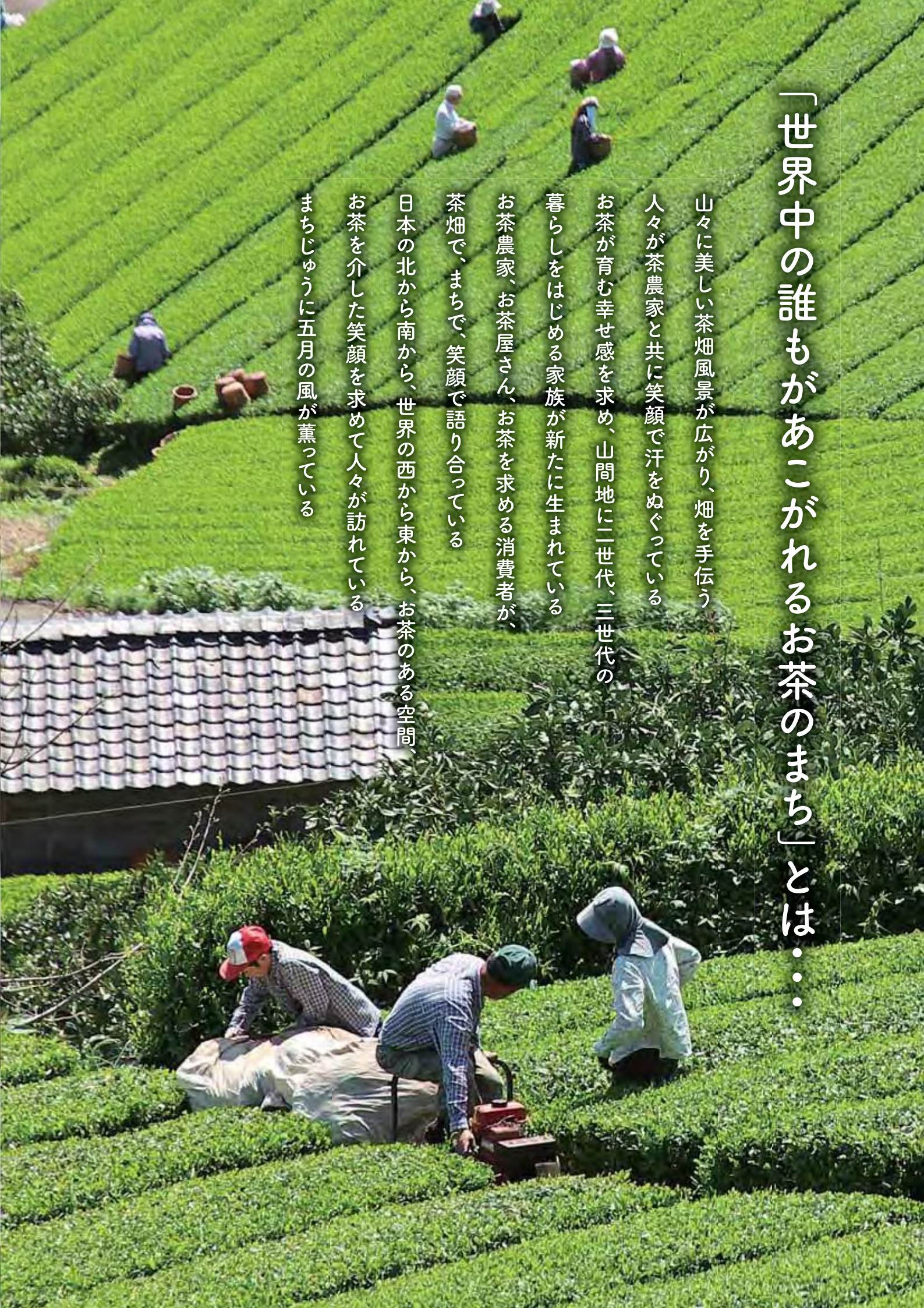
お茶農家、お茶屋さん、お茶を求める消費者が、

茶畑で、まちで、笑顔で語り合っている

日本の北から南から、世界の西から東から、お茶のある空間、

お茶を介した笑顔を求めて人々が訪れている

まちじゅうに五月の風が薫っている



はじめに

静岡市は、山間地を中心に茶畑が広がる全国有数の茶産地であり、全国からお茶が集まるお茶の集散地でもあります。また、静岡市民の緑茶の購入数量は、全国平均の2倍以上であり、お茶の消費も盛んなまちであります。

この静岡市のお茶に関する伝統、文化、産業等を守り、静岡市を日本一の茶どころとして育て、次代に継承していくため、本市では平成20年度に「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を制定するとともに、平成21年度には計画期間を令和元年度までとする「静岡市茶どころ日本一計画」を策定し、これまで、静岡市をお茶のまちとしてブランディングすることを戦略の柱としたお茶のまちづくりや茶業の振興を進めてまいりました。

しかしながら、この間、若者のお茶離れ、茶価の低迷、生産者の高齢化、担い手の減少、そして、耕作放棄茶園の増加など、茶業を取り巻く環境は年々厳しさを増していきました。

一方で、多様化する消費者ニーズや海外における健康志向の高まりを背景として、日本全体の緑茶の輸出は伸びを見せるなど、明るい兆しもあります。

このような様々な変化に対し、適確かつ迅速に対応するとともに、本市の茶業が活力ある日本一の茶どころとして持続的に維持・発展し、生産者が安定的に茶の生産を行うことができるよう、今回、平成21年度に策定した第1次計画を見直し、第2次計画を策定することといたしました。

なお、今回の見直しにあたっては、第3次静岡市総合計画との整合を図りつつ、「静岡市の茶業」の土台となる経営基盤の強化・推進、世界に向けて「静岡市のお茶」と「お茶のまち静岡市」を発信し、海外の需要を確保していくための輸出力の強化、そして、本市がお茶のまちとしてあり続けるためのお茶の消費拡大と新たな需要の創出を重点施策として掲げたところです。

静岡市民にとって身近で当たり前に感じられるお茶ですが、改めてお茶が育む価値を見直し、茶業の振興はもとより、お茶を通じた豊かな市民生活を次代に確実に継承できるよう、市民、茶業者、行政が大同団結し「世界中の誰もがあこがれるお茶のまち」を目指していきましょう。

最後に、今回の計画の見直しにあたりまして、ご協力いただいた市民の皆様、静岡市茶どころ日本一委員会及び静岡市お茶のまちづくり推進協議会の委員の皆様並びに関係機関や関係団体の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

静岡市長 田辺信宏

目 次

はじめに

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の背景 1
- 2 第2次計画の概要 3

第2章 静岡市における茶業の現状と課題

- 1 茶業の現状 7
- 2 第1次計画の実績と評価 11
- 3 計画の見直しに係る意見聴取結果 12
- 4 本市茶業に関する分析 13

第3章 基本構想(お茶のまち静岡市100年構想)

- 1 100年構想の必要性 15
- 2 100年後の「お茶のまち静岡市」が目指す姿 16
- 3 将来像に向けての基本的な方向性 18

第4章 基本計画

- 1 第2次計画の目標像と目標指標 20
- 2 第2次計画の重点施策と取組内容 22
- 3 目標達成に向けた具体的方策 26

第5章 計画の進行管理と推進体制 33

参考資料 34

